Powered by Vivliostyle

文体操舵録



『文体の舵を取れ』練習問題の手帳

ayhy

2

この本は『文体の舵をとれ ル=グウィンの小説教室』(2021)の課題を一個人が実施したものをまとめた制作物です。版元とは一切の関係がありません。

この作品はフィクションです。作中に登場する人物、団体、場所、 出来事はすべて架空のものであり、実在する人物、場所、出来事と は一切の関係がありません。

問三3b 傍観型の語り手36	問一3b 三人称限定①32	問一3a 三人称限定② 27	視点と語りの声3	問三2b 傍観型の語り手22	三人称限定	1 2a	と語り	問二1	問一19	9	自分の文のひびき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		目次	
			問三6b 傍観型の語り手78	問一6b 三人称限定①74	問一6a 三人称限定②	視点と語りの声68	問三5b 傍観型の語り手	問一5b 三人称限定①	問一5a 三人称限定②55	視点と語りの声554	問三4b 傍観型の語り手5	問一4b 三人称限定①46	問一4a 三人称限定② 41	視点と語りの声440

問三12b 傍観型の語り手 162	問三9b 傍観型の語り手120
問一12b 三人称限定①·	問一9b 三人称限定①116
問一12a 三人称限定②·	問一9a 三人称限定②
視点と語りの声12 152	視点と語りの声9110
問三11b 傍観型の語り手	問三8b 傍観型の語り手106
問一11b 三人称限定①·	問一8b 三人称限定①102
問一11a 三人称限定②·139	問一8a 三人称限定② 97
視点と語りの声11	視点と語りの声8 9
問三10b 傍観型の語り手 13	問三7b 傍観型の語り手92
問一10b 三人称限定①·130	問一7b 三人称限定①88
問一10a 三人称限定②·125	問一7a 三人称限定② 83
視点と語りの声10 124	視点と語りの声782

問三16b	問三13b
問一16a 問一16a り	- 13a 三人称限定②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

問三20b	問 20b	問 20a	視点と語り	問三19b	問一19b	問 19a	視点と語り
傍観型の語り手 ??	三人称限定① :??	三人称限定②??	の声20??	傍観型の語り手 ??	三人称限定① :??	三人称限定②??	の声19 ??

合評会でご一緒した皆様に心より御礼申し上げます。

自分の文のひびき

になります。本文の後に置く場合は合評へのレスポン の意図が達成されたかという観点で突っ込んだ合評 面を設ければ、 の場合、 ことをセットとした合評会の設計もあります [1] 解説のように作者が予め作品と合わせて解説を出す いますが、 書かれた文に意図を説明するのは野暮と言われ 読み手への答え合わせになるでしょうか。 本文が始まる前に書き手が意図を説明する紙 ワークショップの本によっては美術展示の 参加者は予断をもって文章を読み、そ そ ż

です。 探りで何も考える余裕がなかったのが正直なところ 章の第 問 一問とやっている間はとにかく手

∃"The anti-racist writing workshop the anti-racist writing workshop" (F. R. Chavez, 2021)など

なかったって思い知らされる。胃が重い。重すぎて、 立ち去るころになって、あの子に大したことができ

動かないくらいだ。遠ざかっているはずなのに、 かぎりは、 たいにぶつけた日記と、 ているのかも。 んとか「いい思い出になった」って話せる台本を作っ じゃないんだけど。取り消し線を沢山引きながら、 っている。どう考えても、何かを書くのに向いた環境 鞄を開けて、こうやって新しいノートを開く羽目にな さくならない。だから目を逸らすように下を向いて、 ひっかかったままの焦げた気球がいつになっても小 幌馬車がガンガン跳ねても22、 たことを書く気はない。ただ何もかもが失敗した訳 本当のことはすぐわかるけど。起きなかっ 鞄に詰まった黒革の、苛立ちを毎日み 市長の手元のレコードがある 胃だけは同じ位置から

文体操舵記録

[2] キャンバス地と木造の骨組みを使った旧大陸の幌馬車以上

金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。

じ に 閉

わけでもないだろう? ないし、日記だって、起きたこと全部を書いている

話じゃなかったとも思うんだ。火トカゲのマーサが始 めて熱気球を打ち上げたときのことは。 気持ち。でも、多分、視点を変えれば、そんなに悪い もっと上手くやれたはずだった、というのは正直な

る。

問二 1

龍紗から水がや海面から躍り を蹴 は支えない。 う弧になる。 水面を叩いては緩んで広がった。ふたたび白蛟が床板 らし伝いながら海面へと戻った。跳ねた白蛟を空気 蛟の子は飛び上がり、沈みこんでは床板を蹴り、 れば、 への繋ぎ橋はまだ、 躍り出る。 跳ねとんだ下肢は陽ざしの下、床板へ向か 龍紗が吐き出した水は、こんどは橋桁を 抜け落ちては、 床板は白蛟のを強かに打ち付けたが、 全身は届かなかった。上体の 上り坂のままである。 膚をぺたりと取り囲み、

> 側から、 れば、 空気の中で育つ藻と珊瑚が隣島の殻を覆い、 珊瑚の浮き上がるような赤とも黄とも緑ともつかない。 濃淡を認めるだろう。 空気に招かれて浮き上がる。がらんどうの島を見上げ ては新しい色を得る。ひとたびうつろになれば、 隣島への道を渡る。 痛みによろめき、 じた龍紗が下肢を保護していた。それでも白蛟の子は けていく紺青でもなく、 中身は白蛟たちの島に吐き出されて、 死んだ珊瑚も同然に色あせていた。 坂を登り切って見下ろすなら、白と灰でない まろびながらも肢を整えては橋の上、 その内側は、 水面近くの白藍でも、 水の纏う色ではない。 まだ空洞のはずであ いま空気の 混ざりあっ 深みの溶 白蛟が見 生きた 島は

はずである。 むまい。 白蛟は意を決すると、 白蛟の、 ましてや子ひとりの重さでは沈 肢を揺らして殻のふ

隣島に中身が戻り、

橋が下り坂になるのはずっと先の

たことのない色と形で手招きするように揺れていた。

ち

11

にかけた。



視点と語 りの声 2

三人称限定①

いく。 唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

て歩いていく。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 弟の背丈ならだいた 絶対

けるのを見た。 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

る。

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

にマットレスの感触。

12

٤ しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 2a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

啓は駆けだしていた。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

٤

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、 ぼすん

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向か

遠隔型の語り 手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 差し向

イクルキャプチャ©は、

対象が動いてくるの

を

部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

アー に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ チ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目りのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とがギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 2a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃートを蹴り一六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃートを蹴りつけ続け

力

か

のだ。 のだ。 のだ。 しれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時かに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 問 四 2 a 潜 入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 描

16

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキリ間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキリでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、や

「当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当エリーが、

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 唐木田がこの場で有効な証

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

2 b 三人称限 (定) 即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はか

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メト 口 ノ 1 4

Z

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

ける。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 絶対

でも弟はもう駆けだしていた。 弟の手前でさえなければ。 床面の矢印が点滅

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ

っちへ行きたかった。

L

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

にマットレスの感触。 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりとがんだレンズ――あんなの、も

問一 2b 三人称限定②

れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも―― 啓が見 たことのある本物のジャイロスコ

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からいがを引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

ŧ

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。 遊るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。 ◆ 問二 2b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84~8の範囲で回転している。RPM

内部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》を上りの高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ@へ飛び込む親子連れも、年齢制限を

は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることく人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

プできない子供たち、

跳びこむ動きが困難な利用者を

っている。

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

問三 2b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

りな旧式スキャナの電源を入れる。

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛かった。同シフトの

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

緒に歩いていた。

<

n

ない。

エントランスは殺風景で、出口ドアから覗くカラフ◆ 問四 2b 潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか銀の半円リングが回っている。

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん国、飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

5

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

うャ

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

VRアミューズメント施設では実際に体を

いものだ。

や、おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、く球の中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込ったかもしれない。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ンユス、とうぎょうユーカニカニューのエンンズで形で、あらがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。

ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しかし、

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 それこそが、 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 れた線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を

の事例が念頭にありました。 余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 3

▼ 問一 3 a 三人称限定①

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ駅けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なる音がずっと右から下から左から―― そして膝に足い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なる音がずっと右から下から左から―― そして膝に足る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足の音がずっと右から下から左から―― そして膝に足の音がずっと右から下から左から

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続き、悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけにマットレスの感触。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 3a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

啓は駆けだしていた。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

٤

文体操舵記録

27

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 3a 遠隔 型の語 り手

地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 チ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 イクルキャプチャ©は、 部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 対象が動いてくるの 《再構成圏内》 図式としては 差し向 を

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目かが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 3a 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

か

力

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 問 四 з а 潜 入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 描

30

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのような事られる。保安員が指導されているのは、そのような事

れた線を隠しきれてはいない。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

易所を選んご里由ごっこ。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。といったかが部屋を外しているもう一人の保安員、たしか宮垣とていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのとった。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラー当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事ががですが、書いているときは過去の回転ドア事故

問一 3b 三人称限定①

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はか

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームーしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

Z

いく。 刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって対さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

て歩いていく。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、終し大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

L

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

にマットレスの感触。 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと立んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 3b 三人称限定②

れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

ŧ

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。 整は駆けだしていた。 変族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いり柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

問二 3b 遠隔型の語り手

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。地球

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84~48の範囲で回転している。RPM

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、

内部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

34

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ@へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にないできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とがミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

文体操舵記録

35

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

問三 3b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし、少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、

私は部屋の端にある目立た

安心させる

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前の手が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手供事に親子が入場したのを見届けてドアから戻ってくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらのを振事に親子が入場したのを見届けてドアから戻ってないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

に女の子は立ち上がり、

緒に来たと思しき男の子と

緒に歩いていた。

ζ

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四四 3 b 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 5 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

国

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む いものだ。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

う ヤ

ナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そ

37

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

や

態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 を取

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

文体操舵記録

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、 それこそが、 撤去された機材の跡が黒 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 れた線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を

の事例が念頭にありました。 余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声4

▼ 問一 4a 三人称限定①

いく。

「別を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きたいに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ駅けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

けるのを見た。

な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続いてマットレスの感触。

はマットレスの感触。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 4a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

٤

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、

ぼすん

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 4a 遠隔 型の語 り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、年分回転84~88の範囲で回転している。サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そこに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》を撮像する。サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを開発が表している。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 りとした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のいるでは取りにくい(問二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 4a 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

力

か

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

威圧感を覚えたのか、

彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

りな旧式スキャナの電源を入れる。

側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手

ない。私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

緒に歩いていた。

エントランスは殺風景で、出口ドアから覗くカラフ◆ 問四 4a 潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだ

虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。ら、アトラクションの一部と言えなくもない。それは

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれなだ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに

国

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むといものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を

ったかもしれない。

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込

く球の中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補

おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、

や

か

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取してもいた。

れた線を隠しきれてはいない。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣とていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのいていた。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラー当日の様子を話していただけますか?」

いた。

いた。

少なくともその点で、二人の利害は一致していた。
少なくともその点で、二人の利害は一致していた。
少なくともその点で、二人の利害は一致していた。
かった。
少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

▼ 問一 4b 三人称限定①

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームーしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

Z

いく。 刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって れいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

できったかった。弟の手前でさえなければ。 ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 をと大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 とた。

でも弟はもう駆けだしていた。

床面の矢印が点滅

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続いを手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、ものり抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 4b 三人称限定②

れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からず中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

47

ŧ

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で返るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

問二 4b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w トルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、養の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

——内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

48

地球

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ@へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

問三 4b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

― 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしくし眼間カカカリますカーとして自己さして書いる

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

りな旧式スキャナの電源を入れる。

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛か

同シフトの

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

緒に歩いていた。

ζ

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

銀の半円リングが回っている。

5

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の

国

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む いものだ。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

う ヤ

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 ナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ を取

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお エントランスは殺風景で、 それこそが、 撤去された機材の跡が黒 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 れた線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

ります

いた。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を

の事例が念頭にありました。 余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語 りの声 5

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 三人称限定①

いく。 唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

て歩いていく。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 弟の背丈ならだいた 絶対

けるのを見た。 にマットレスの感触。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

る。

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 5 a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

٤

٤

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、 ぼすん

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 5a 遠隔 型の語 り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 チ内 イクルキャプチャ©は、 部へ跳びこむことを要求する。 .側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 対象が動いてくるの 《再構成圏内》 図式としては を

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目がのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

◆ 問三 5a 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

か

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛た。同シフトの

力

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

問 四 5 a 潜 入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その 銀の半円リングが回っている。 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

> 国 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込 しかし時折、 勢いあまった子供達 描

おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は

や

か

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。眺を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

れた線を隠しきれてはいない。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣とていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのしていた。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラニ当日の様子を話していただけますか?」

59

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

· 問一 5b 三人称限定①

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームーしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

Z

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜けて歩いていく。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。かだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、終し大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対終し大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

L

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

る音がずっと右から下から左から――そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

にマットレスの感触。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりとがんだレンズ――あんなの、も

問一 5b 三人称限定②

れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも―― 啓が見 たことのある本物のジャイロスコ

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からいがを引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

ŧ

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 5b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

毎分回転8~8の範囲で回転している。かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、差し向

サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを毋分回転84〜48の範囲で回転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、

内部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

地球

は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

> うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、 未知の情報を読者に提示することを主目

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 跳びこむ動きが困難な利用者を

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

文体操舵記録 63

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

プできない子供たち、

▼ 問三 5 b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ まあマッサージとでも思え 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ · 今子供 着陸時

少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

ζ

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四四 5 b 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー や

く球の中央を通る。

しかし時折、

勢いあまった子供達

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補

5

国

ヤ 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 ナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ を取

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

う

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

VRアミューズメント施設では実際に体を

だ大人の子供のスキャンし、

その現し身をデータ世界

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

いものだ。

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 それこそが、 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 れた線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を

の事例が念頭にありました。 余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 6

▼ 問一 6a 三人称限定①

いく。

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きたいに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

て歩いていく。 で歩いていく。 で歩いでは、男がトランポリンに向かっける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわりの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なる音がずっと右から下から左から――そして膝に足でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にりズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にりズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にりズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にりズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になる音がずっと右から下から左から――そして膝に足の話がずっと右から下から左から――そして膝に足の話がずっと右から下から左から――そして膝に足の音がずっと右から下から左から――そして膝に足の音がずっと右から下からない。

けるのを見た。
る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけにマットレスの感触。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 6a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

٤

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、 ぼすん

٤

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。 ◆ 問二 6a 遠隔 型の語 り手

地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 チ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 イクルキャプチャ©は、 部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 対象が動いてくるの 《再構成圏内》 図式としては 差し向 を

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目がが調一段階では取りにくい(間二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(間二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 6a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃー日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

力

か

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

威圧感を覚えたのか、

彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

りな旧式スキャナの電源を入れる。

5

無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて

に女の子は立ち上がり、 緒に歩いていた。 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

問 四四 6 a 潜入型の語り手 ない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

銀の半円リングが回っている。

か

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

国

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ったかもしれない。

いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 描

72

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取してもいた。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ

「当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答いれた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当

73 文体操舵記録

まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれられだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたかった。少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事のが念頭にありました。回転体に人間を接触させの事が

問一 6b 三人称限定①

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームーしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

Z

いく。 刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

できなければ。 できなければ。 ですることは、悠にはまだ信じられない。 でっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 をと大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 をと大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 をと大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 をと大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 をと大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 をとするなば、悠にはまだ信じられない。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内 .'側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

問一 6b 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 でも| ― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

助走をつけてジャンプすると、 半円のフレー ム

ŧ

- 家族の一団が別から抜けて別が一気に焦じ。見界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 6b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w トルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、養の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転8~8の範囲で回転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、

内部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

っている。 の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな ができない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はがない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はがない。安全性に懸念を示す親や、 がのやること

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

問三 6b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ緒に歩いていた。

に女の子は立ち上がり、

緒に来たと思しき男の子と

ζ

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四四 6b 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 それは

や

5

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その現し身をデータ世界

国

虹をくぐった先の魔法の国、

霧を抜けた先の不思議の

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

う ヤ いものだ。

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 ナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ を取

文体操舵記録

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、 それこそが、 撤去された機材の跡が黒 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 れた線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を エントラ

の事例が念頭にありました。 余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語 りの声 7

三人称限定①

いく。 唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

て歩いていく。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

る。

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 弟の背丈ならだいた 絶対

けるのを見た。 にマットレスの感触。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 7a 三人称限定②

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、希がわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

啓は駆けだしていた。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

٤

٤

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はバリアを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でーランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん(リード);

83 文体操舵記録

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 7a 遠隔 型の語 り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、年分回転84~88の範囲で回転している。サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そこに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定つ加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》を撮像する。サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを開発がある。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、 いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の うのが問一段階では取りにくい と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、 (問二でわかった)と とい

問三 7 a 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 日ぶり十六件目。 を蹴りつけ続け 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミ 意を決して近づいた。こ

力

か

のだ。 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 睡もできなかったけれど。 今子供 着陸時

威圧感を覚えたのか、 予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 彼らの顔が強張る。 アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。 髙橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 安堵した親が子供に声をかけ、 子供は泣き腫らし そちらの大掛 同シフトの 安心させる

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

エントランスは殺風景で、 問 四 7 a 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ない。

ューズメントパークの園内である。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 描

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ膨を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

で、そうで、こうで、ここにできないのであから目線を上唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、や

「当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答いていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当

まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれられだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたかった。少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事のが念頭にありました。回転体に人間を接触させの事が

問一 7b 三人称限定①

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームーしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

Z

いく。 刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜けて歩いていく。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、終し大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

L

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

にマットレスの感触。る音がずっと右から下から左から――そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりとがんだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 7b 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも―― 啓が見 たことのある本物のジャイロスコを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からいがを引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

89

ŧ

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感感をシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 啓は駆けだしていた。 というのではなで高くジャンプする。浮遊感と をは駆けだしていた。

サイクルキャプチャ©は、

対象が動いてくるのを

図式としては

内部へ跳びこむことを要求する。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

での期間限定だけど。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 7b 遠隔型の語り手

毎分回転84~8の範囲で回転している。 かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、 の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 くりである。地球サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。地球

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になけずる銀の大縄へ跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは小ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは外ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示するのが主な仕事になる。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

91 文体操舵記録

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

問三 7b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ · 今子供 着陸時

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。

りな旧式スキャナの電源を入れる。

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛か

同シフトの

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ緒に歩いていた。

ζ

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四四 7**b** 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

国 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

や

5

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む いものだ。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

う ヤ ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 ナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ を取

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

文体操舵記録 93

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。

北ントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒ないので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチャの導入事例としてカタログには載っているが、それは実際に運用される前の状態であった。当時の面影は当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの場所を選んだ理由だった。

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

込むだろう。 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触され

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声8

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 8a 三人称 限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。 で歩いていく。 で歩いでは、男がトランポリンに向かっける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわりの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、駅けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りが立って、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りができます。

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続勝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

にマットレスの感触。

٤ しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 8 a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

啓は駆けだしていた。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

٤

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、

文体操舵記録

ぼすん

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 8a 遠隔 型の語 り手

地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 チ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 イクルキャプチャ©は、 部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 対象が動いてくるの 《再構成圏内》 図式としては 差し向 を

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといながいた (間二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(間二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 8a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃー日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

力

か

のだ。 のだ。 のだ。 しれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時かに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、そちらの大掛

立体攝舵記録

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

国

ない。 緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

問 四 8 a

潜

入型の語り手

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

5 動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 描

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ャナを怖がる子供、 られる。 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 ニュアルでは、 保安員が指導されているのは、そのような事 うまく飛べそうにない大人、そう 別室扱いの客が出た時のためにペ

> 場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。それこそが、 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ 唐木田がこの 当時の面影は

ります」 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、 れた線を隠しきれてはいない。

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 していた。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 当時のシフト表ではスキャナー 高橋という名の元従業員は、エントラ ルームにの

文体操舵記録 101

ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

広告用の園内写真もない。サイクルキャプ

チ

いので、

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 唐木田がこの場で有効な証

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はか こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

8 b 三人称限 (定) なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メト 口 ノ 1 4

Z

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

ける。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

口

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 ることは、悠にはまだ信じられない。 っちへ行きたかった。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 弟の手前でさえなければ。 絶対

L

でも弟はもう駆けだしていた。

床面の矢印が点滅

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

にマットレスの感触。

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内 .'側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

問一 8b 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 でも| ― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

して向こう側を見ようとする。 助走をつけてジャンプすると、 半円のフレー ム

ŧ

文体操舵記録

考える。 バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 啓は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向か

> 問二 8b 遠隔型の語 り手

毎分回転8~8の範囲で回転している。 RFM かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 地球

サイクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、

内部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。サイクルキャプチャ®は アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 だが一度に

カメラ映像から三次元形状を再

構成する。

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ@へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とがミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

問三 8b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを 一日ぶり十六件目。 蹴りつけ続け 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし、少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

無事こ親子が入場したのを見届けてドアから戻ってりな旧式スキャナの電源を入れる。高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、がはいいのように

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

緒に歩いていた。

ζ

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四四 8b 潜入型の語 り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 出口ドアから覗くカラフ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 それは

や

5

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いものだ。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

う ヤ 国

虹をくぐった先の魔法の国、

霧を抜けた先の不思議の

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 ナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ を取

文体操舵記録 107

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、 それこそが、 撤去された機材の跡が黒 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 た線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を エントラ

の事例が念頭にありました。 余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視 点と語 りの声 9

三人称限定①

いく。 唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

て歩いていく。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 弟の背丈ならだいた 絶対

けるのを見た。 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

る。

にマットレスの感触。

٤ しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 9a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

啓は駆けだしていた。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

٤

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、

ぼすん

٤

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と その全部がコマ送りで感

文体操舵記録

111

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

問二 9a 遠隔型の語り 手

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 差し向 地球

イクルキャプチャ©は、

対象が動いてくるの

を

|部へ

跳びこむことを要求する。

図式としては

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 チ .側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、 《再構成圏 内 そ

っている。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80

か

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 プできない子供たち、 は少ない。安全性に懸念を示す親や、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 跳びこむ動きが困 何事もない顔をして回転 怖がってジャン だが一度に人 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 9a 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃー日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし、少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。

安心させる

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

か

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛た。同シフトの

力

を蹴りつけ続け

背中を椅子越しにリズミ

113 文体操舵記録

りな旧式スキャナの電源を入れる。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

緒に歩いていた。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 問 四 9 a 潜 入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

5 国 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 描

114

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 中ナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのとていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのは日の様子を話していただけますか?」

115 文体操舵記録

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。

いた。

なくともその点で、二人の利害は一致していた。少なくともその点で、二人の利害は一致していった。少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

ながる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事が

問一 9b 三人称限定①

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームーしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

Z

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

て歩いていく。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそがと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

L

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

にマットレスの感触。

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内 .'側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 9b 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも| ― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

助走をつけてジャンプすると、 半円のフレー ム

ŧ

文体操舵記録

117

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、羊サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 9b 遠隔型の語り手

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

っている。 の本来の使用者である常駐保安員のやることができない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはがない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはがある。

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

問三 9b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを 一日ぶり十六件目。 蹴りつけ続け 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

れではないだろう。とはいえ、私のような雇わメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手似を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

緒に歩いていた。

ζ

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四 9b 潜入型の語

り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 出口ドアから覗くカラフ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

や

5

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む いものだ。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

う ヤ

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 ナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ を取

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。

文体操舵記録 121

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。

場所を選んだ理由だった。
な実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はいるが、まれる。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの場所を選んだ理由だった。

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を エントラ

•

いた。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 10

◆ 問一 10a 三人称限定①

いく。
刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きたいに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

て歩いていく。

で歩いていく。

な歩いでは、男がトランポリンに向かって小走りに

別の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、駅けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りが立って、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがでして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りができない。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけにマットレスの感触。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

٤ しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 10a 三人称限定②

していられるの?

れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

٤

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、

٤

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま 啓は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と その全部がコマ送りで感

ぼすん 文体操舵記録

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 10a 遠隔型の語 前り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向 地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 チ イクルキャプチャ©は、 |部へ **]側の高速度カメラは一回転で300** 跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、 対象が動いてくるの 《再構成圏 図式としては 〜40枚の人体 内 そ を

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 は少ない。安全性に懸念を示す親や、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 跳びこむ動きが困 何事もない顔をして回転 怖がってジャン だが一度に人 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といぎミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 10a 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

力

か

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

127 文体操舵記録

りな旧式スキャナの電源を入れる。

5

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

国

緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

エントランスは殺風景で、 問 四四 10a 潜入型 出口ドアから覗くカラフ 立の語 前り手

ったかもしれない。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ない。

ューズメントパークの園内である。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

128

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働的れる。保安員が指導されているのは、そのような事られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣とていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのしていた。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラニ当日の様子を話していただけますか?」

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 唐木田がこの場で有効な証

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

問一 10b 三人称限 定 (1)

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メト 口 ノ 1 4

Z

L

でも弟はもう駆けだしていた。

床面の矢印が点滅

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

ける。 駆けていった。 りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

П

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 ることは、悠にはまだ信じられない。 っちへ行きたかった。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 弟の手前でさえなければ 絶対

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

٤ しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内 .'側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

していられるの?

問一 10b 三人称限 (定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

でも|

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

助走をつけてジャンプすると、 半円のフレー ム

ŧ

文体操舵記録 131

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、美サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。

サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを毎分回転84~48の範囲で回転している。RPM

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ――内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることく人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とがギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

▼ 問三 10b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを 一日ぶり十六件目。 蹴りつけ続け 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛かった。同シフトの

側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

一緒に歩いていた。に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

<

n

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四 . 10b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

や

5

国

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む いものだ。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

う ヤ

ナを怖がる子供、

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ ったかもしれない。

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 を取

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 うまく飛べそうにない大人、そ

文体操舵記録 135

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。

場所を選んだ理由だった。

場所を選んだ理由だった。

場所を選んだ理由だった。

場所を選んだ理由だった。

場所を選んだ理由だった。

場所を選んだ理由だった。

れた線を隠しきれてはいない。 げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上 ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を エントラ

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 11

◆ 問一 11a 三人称限定①

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ駅けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。

転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけにマットレスの感触。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

٤ しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 11a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

啓は駆けだしていた。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

٤

٤

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、 レンズがきらきらしている、 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と その全部がコマ送りで感 フレームの内側で

ぼすん 文体操舵記録

139

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語 前り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向 地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 チ イクルキャプチャ©は、 |部へ .側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、 対象が動いてくるの 《再構成圏 図式としては 内 そ を

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 は少ない。安全性に懸念を示す親や、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 跳びこむ動きが困 何事もない顔をして回転 怖がってジャン だが一度に人 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目がう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

◆ 問三11a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

力

か

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

141 文体操舵記録

りな旧式スキャナの電源を入れる。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

5

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

緒に歩いていた。

エントランスは殺風景で、 問 四四 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ 前り手

ューズメントパークの園内である。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは

いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を

国

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

142

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ャナを怖がる子供、 られる。 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 ニュアルでは、 保安員が指導されているのは、そのような事 うまく飛べそうにない大人、そう 別室扱いの客が出た時のためにペ

> ります」 場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。それこそが、 は実際に運用される前の状態であった。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、 れた線を隠しきれてはいない。

「当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 していた。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 無理もない。 当時のシフト表ではスキャナールームにの 高橋という名の元従業員は、エントラ

チ

いので、

ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

広告用の園内写真もない。サイクルキャプ

文体操舵記録 143

まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれられだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたかった。少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事のが念頭にありました。回転体に人間を接触させの事が

▼ 問一 11b 三人称限定①

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームーしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

Z

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ

L

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内 .'側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

問一 11b 三人称限 (定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも|

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

助走をつけてジャンプすると、 半円のフレー ム

して向こう側を見ようとする。

ŧ

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。 遊るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家がの一団カ列カら抜けて列カー気に進む 神男を

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、羊サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 11b 遠隔型の語り手

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

っている。 の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になができない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

・ 問三 11b 傍観型の語り

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを 一日ぶり十六件目。 蹴りつけ続け 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

れではないだろう。とはいえ、私のような雇わメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

りな旧式スキャナの電源を入れる。

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛かった。同シフトの

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

緒に歩いていた。

ζ

ない。

問 四 11b

潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 5 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

いものだ。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

う ヤ 国

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

や

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 ナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ を取

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

文体操舵記録 149

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、 それこそが、 撤去された機材の跡が黒 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 た線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を エントラ

の事例が念頭にありました。 余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視 点と語 りの声 12

問一 12a 三人称限 定①

いく。 唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ て歩いていく。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 弟の背丈ならだいた 絶対

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

る。

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

٤ しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 12a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

٤

٤

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま 啓は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と その全部がコマ送りで感

ぼすん 文体操舵記録 153

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 イクルキャプチャ©は、 遠隔型の語 対象が動いてくるの 前り手

差し向 地球

部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

を

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 チ内 .側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、 《再構成圏 内 そ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 は少ない。安全性に懸念を示す親や、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 跳びこむ動きが困 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 12a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け ―― 背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

力

か

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛た。同シフトの

のだ。 のだ。 のだ。 しれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時かに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

CC 女体塌触部裂

りな旧式スキャナの電源を入れる。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

5

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

エントランスは殺風景で、 問 四四 12a 潜入型 出口ドアから覗くカラフ 立の語 買り手

ったかもしれない。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

国

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込 描

156

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。中ナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキリでを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そうはのである。保安員が指導されているのは、そのような事しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取してもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、や

「当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当エリーが、

157 文体操舵記録

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 唐木田がこの場で有効な証

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

問一 12b 三人称限 定 (1) なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メト 口 ノ 1 4

Z

L

でも弟はもう駆けだしていた。

床面の矢印が点滅

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

ける。 駆けていった。 りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

П

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 ることは、悠にはまだ信じられない。 っちへ行きたかった。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 弟の手前でさえなければ 絶対

158

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

にマットレスの感触。

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内 .'側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

問一 12b 三人称限 (定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、 部屋には低いモーター音が響いていて、 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 靴裏からで

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 でも| ― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

助走をつけてジャンプすると、 半円のフレー ム

して向こう側を見ようとする。

ŧ

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まある。だらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側ではないできる。というでは、

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目は地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、羊サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 12b 遠隔型の語り手

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ――内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはーサイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを

毎分回転8~8の範囲で回転している。 アートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》

人然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地 球 160

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ@へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

っている。 のできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はがない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はがないの本来の使用者である常駐保安員のやること

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが間一段階では取りにくい(間二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(間二でわかった)と

161 文体操舵記録

> 問三 12b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを 一日ぶり十六件目。 蹴りつけ続け 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻ってりな旧式スキャナの電源を入れる。

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛かった。同シフトの

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ緒に歩いていた。

<

ない。

問 四

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

5

国

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いものだ。 VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

う ヤ

ナを怖がる子供、

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

や

られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 を取

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 うまく飛べそうにない大人、そ 文体操舵記録

163

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しておずんだ枠となって残っている。アトラクションではないので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッので、広告用の園内写真もない。サイクルはないので、広告用の園内写真もない。

れた線を隠しきれてはいない。 げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上 ります

いた。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を エントラ

t. の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触され

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 13

◆ 問一 13a 三人称限定①

いく。

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きたいに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

て歩いていく。

で歩いていく。

な歩いでは、男がトランポリンに向かって小走りに

のの先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。

転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、がリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのりばいて、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なる音がずっと右から下から左から――そして膝に足の話がずっと

けるのを見た。。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

にマットレスの感触。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

٤ しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 13a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

٤

٤

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま 啓は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、 レンズがきらきらしている、 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と その全部がコマ送りで感 フレームの内側で

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、 ぼすん

文体操舵記録 167

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

遠隔型の語 前り手

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 差し向 地球

イクルキャプチャ©は、

対象が動いてくるの

を

|部へ

跳びこむことを要求する。

図式としては

そ

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 ・チ内 .側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、 《再構成圏 内

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

プできない子供たち、

跳びこむ動きが困

難な利用者を

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 は少ない。安全性に懸念を示す親や、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン だが一度に人 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 13a 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

か

高橋さんに目配せをしてドアを開け、々ないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛た。同シフトの

力

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

りな旧式スキャナの電源を入れる。

5

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

国

ない。 緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

問 四四 潜入型の語 買り手

ったかもしれない。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 ズメントパークの園内である。 出口ドアから覗くカラフ

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

銀の半円リングが回っている。

か

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

170

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポースで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚られる。保安員が指導されているのは、そのような事時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そういったものを手短に別室へ案内することも含まれる。マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペアで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、や

「当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当エリーが、

チ

いので、

ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

広告用の園内写真もない。サイクルキャプ

171 文体操舵記録

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 唐木田がこの場で有効な証

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

口

問一 13b 三人称限 定 (1) なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メト 口 ノ 1 4

L

でも弟はもう駆けだしていた。

床面の矢印が点滅

Z

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ける。 駆けていった。 て歩いていく。 りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 ることは、悠にはまだ信じられない。 っちへ行きたかった。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 弟の手前でさえなければ。 絶対

172

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内 .'側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

問一 13b 三人称限 (定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

でも|

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

助走をつけてジャンプすると、 半円のフレー ム

ŧ

文体操舵記録 173

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目を地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 13b 遠隔型の語り手

— 内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを´===8

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

っている。 のできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を ができない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はがない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はがないの本来の使用者である常駐保安員のやること

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目のが間一段階では取りにくい(間二でわかった)とうのが間一段階では取りにくい(間二でわかった)と

・ 問三 13b 傍観型の語り

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを 一日ぶり十六件目。 蹴りつけ続け 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし一少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、

私は部屋の端にある目立た

安心させる

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。

ないドアに向かって親子連れを先導した。

同シフトの

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前気を上、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて使の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてするが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ緒に歩いていた。

ζ

ない。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 問 四 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

国 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 5 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

> や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 を取

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ ナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ

態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

う ヤ いものだ。

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

VRアミューズメント施設では実際に体を

だ大人の子供のスキャンし、

その現し身をデータ世界

文体操舵記録 177

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。

場所を選んだ理由だった。

な実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

込むだろう。 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さの事例が念頭にありました。回転体に入間を接触され

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視 点と語 りの声 14

問一 14a 三人称限定①

いく。 唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

て歩いていく。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 弟の背丈ならだいた 絶対

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

る。

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

にマットレスの感触。

٤ しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 14a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

٤

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、

٤

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、 レンズがきらきらしている、 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と その全部がコマ送りで感 フレームの内側で

文体操舵記録

ぼすん

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語 ŋ

差し向 地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 ・チ内 イクルキャプチャ©は、 |部へ .側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、 対象が動いてくるの 《再構成圏 図式としては 内 そ を

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 は少ない。安全性に懸念を示す親や、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 跳びこむ動きが困 何事もない顔をして回転 怖がってジャン だが一度に人 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 14a 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

力

か

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

アミューズ

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

りな旧式スキャナの電源を入れる。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 問 四四 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ったかもしれない。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

銀の半円リングが回っている。

ズメントパークの園内である。

か

5, 国 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

184

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、や

「当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当エリーが、

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

問一 14b 三人称限 定 (1) なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メト 口 ノー 4

み

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

ける。 駆けていった。 りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

て歩いていく。

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 П 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 絶対

でも弟はもう駆けだしていた。 弟の手前でさえなければ 床面の矢印が点滅

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ

っちへ行きたかった。

やだと泣き叫び、

挙句両親もスタッフも手を上げて、

L

186

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内 .'側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

問一 14b 三人称限 (定2)

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

でも|

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

助走をつけてジャンプすると、 半円のフレー ム

ŧ

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 14b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

毎分回転8~8の範囲で回転している。 かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

——内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを5万巨転8~48の巢囲で巨転している。

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。のルキャプチャ@へ飛び込む親子連れも、年齢制限をクルキャプチャ@へ飛び込む親子連れも、年齢制限を外においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイトを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

っている。 のできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はかない。安全性に懸念を示す親や、 にがってジャン

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

整理がかなり大変だと思いました。

・ 問三 14b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを 一日ぶり十六件目。 蹴りつけ続け 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし一少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、

私は部屋の端にある目立た

安心させる

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前の手が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前のな旧式スキャナの電源を入れる。無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻ってくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらりな旧式スキャナの電源を入れる。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

に女の子は立ち上がり、

緒に来たと思しき男の子と

緒に歩いていた。

ζ

190

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四 14b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

5

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いものだ。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

う ヤ

ナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そ

国

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

や

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 を取

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。
場所を選んだ理由だった。
場所を選んだ理由される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はないので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、放出ではないのではないではないではないではないではないではないではないではないでは、

れた線を隠しきれてはいない。 げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上 ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

込むだろう。

高橋も唐木田も、

そのシナリオは避けた

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ

「当日の様子を話していただけますか?」「当日の様子を話していただけますか?」「当日の様子を話していただけますか?」を担当といったかが部屋を外しているときの出来事だった。といったかが部屋を外しているときの出来事だった。といったかが部屋を外しているときの出来事だった。といったかが部屋を外しているときの出来事だった。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視 点と語 りの声 15

問一 15a 三人称限定①

いく。 唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

て歩いていく。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 弟の背丈ならだいた 絶対

けるのを見た。 にマットレスの感触。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

る。

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

٤ しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 15a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

٤

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、

ぼすん

٤

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。

啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と その全部がコマ送りで感

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 15a 遠隔型の語 ŋ

差し向 地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 ・チ内 イクルキャプチャ©は、 |部へ .側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、 対象が動いてくるの 《再構成圏 図式としては 内 そ を

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 は少ない。安全性に懸念を示す親や、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 跳びこむ動きが困 何事もない顔をして回転 怖がってジャン だが一度に人 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目から評をわりといただいた実作で、それはその通りだいが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とがギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 15a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け ―― 背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃー日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

か

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛

力

りな旧式スキャナの電源を入れる。

5

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

国

ない。 緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

エントランスは殺風景で、 問 四四 15a 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ったかもしれない。

ズメントパークの園内である。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

198

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。といったが部屋を外していた名の元従業員は、エントラー、当日の様子を話していたが、事故が起きた時の第一応答み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答の割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答の割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答の割り当てられているときの出来事だった。

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 唐木田がこの場で有効な証

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

問一 15b 三人称限 定 1 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メト 口 ノ 1 4

み

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

ける。 駆けていった。 りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

口

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 ることは、悠にはまだ信じられない。 っちへ行きたかった。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 弟の手前でさえなければ 絶対

でも弟はもう駆けだしていた。 床面の矢印が点滅

L

い五歩、 て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

駆けだして、 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

٤ していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内 .'側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

問一 15b 三人称限定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 でも| ― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

助走をつけてジャンプすると、 半円のフレー ム

して向こう側を見ようとする。

ŧ

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で返しいた。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、羊サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。◆ 問二 15b 遠隔型の語り手

--- 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては毎分回転84〜88の範囲で回転している。 のを のり がいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~90枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイトを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

っている。 のできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はかない。安全性に懸念を示す親や、 を がのやること

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

203 文体操舵記録

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

▼ 問三 15b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを 一日ぶり十六件目。 蹴りつけ続け 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

――少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

緒に歩いていた。

ζ

ない。

問

エントランスは殺風景で、 四 15b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

や

5

国

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

う ヤ

ナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そ

いものだ。

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 そのような事 を取

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、 それこそが、 撤去された機材の跡が黒 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 た線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を エントラ

の事例が念頭にありました。 余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視 点と語 りの声 16

問一 16a 三人称限定①

いく。 唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

て歩いていく。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

る。

る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 弟の背丈ならだいた 絶対

けるのを見た。 にマットレスの感触。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

通り抜けた。 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 16a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

٤

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 16a 遠隔型の語 ŋ

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向 地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 チ内 イクルキャプチャ©は、 部へ跳びこむことを要求する。 .側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、 対象が動いてくるの 《再構成圏 図式としては 内 そ を

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 は少ない。安全性に懸念を示す親や、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 跳びこむ動きが困 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目がいる時間一段階では取りにくい(間二でわかった)と

◆ 問三 16a 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

のだ。 のだ。 のだ。 しれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時のだ。

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

か

高橋さんに目配せをしてドアを開け、々ないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛た。同シフトの

力

りな旧式スキャナの電源を入れる。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、 ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて

に女の子は立ち上がり、 緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく 一緒に来たと思しき男の子と

問 四四 潜入型の語 り手

ったかもしれない。

ない。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 ズメントパークの園内である。 出口ドアから覗くカラフ

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

銀の半円リングが回っている。

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

212

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーメラでスキャンデータ構築を失敗することはない。しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚られる。保安員が指導されているのは、そのような事時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そういったものを手短に別室へ案内することも含まれる。マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペアで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

「当日の様子を話していただけますか?」れた線を隠しきれてはいない。

無理もない。

高橋という名の元従業員は、エントラ

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当

チ

いので、

ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

広告用の園内写真もない。サイクルキャプ

まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれられだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けためった。少なくともその点で、二人の利害は一致していた。

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事のが念頭にありました。回転体に人間を接触させの事のが

▼ 問一 16b 三人称限定①

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームーしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

み

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

L

っちへ行きたかった。

弟の手前でさえなければ

でも弟はもう駆けだしていた。

床面の矢印が点滅

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

駆けだして、 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切

る。 けるのを見た。 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、 振り向いて円リングが回り続

٤ しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内 .'側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

していられるの?

問一 16b 三人称限 (定②

も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず れると、、 部屋には低いモーター音が響いていて、 靴裏からで

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 でも| ― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

助走をつけてジャンプすると、 半円のフレー

ム

ŧ

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

問二 16b 遠隔型の語り手

毎分回転84~8の範囲で回転している。 像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向いなる。 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。地球

──内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを『矢匠車&〜¾0箪匠で匠車してしる

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

`

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づている。

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

217 文体操舵記録

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

▼ 問三 16b 傍観型の語り

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを 一日ぶり十六件目。 蹴りつけ続け 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし一少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 りな旧式スキャナの電源を入れる。 ようににっこりと笑うと、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 私は部屋の端にある目立た 緒に来たと思しき男の子と そちらの大掛か 同シフトの 安心させる

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

緒に歩いていた。

ζ

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

5

国

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いものだ。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

う ヤ ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

や

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 ナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ を取

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。

場所を選んだ理由だった。

な実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を エントラ

•

いた。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 17

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 17a 三人称限 定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ駅けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切取けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切取けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切取けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切取けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切取けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切取けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切取けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがよっと右から下から左から――そして膝に足のまずで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になる音がずっと右から下から左から――そして膝に足がよって、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがよっと右から下から左から――そして膝に足のまずでは、着いないの無理、絶対

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。

る。

にマットレスの感触。

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 17a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

٤

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、

ぼすん

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まロンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

223 文体操舵記録

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語 前り手

差し向 地球

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 ・チ内 イクルキャプチャ©は、 部へ跳びこむことを要求する。 .側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、 対象が動いてくるの 《再構成圏 図式としては 内 そ を

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 は少ない。安全性に懸念を示す親や、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 跳びこむ動きが困 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(間二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(間二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 17a 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

力

か

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

25 支休場於司得

りな旧式スキャナの電源を入れる。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

5

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

国

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

緒に歩いていた。

エントランスは殺風景で、 問 四四 潜入型 出口ドアから覗くカラフ 立の語 り手

ったかもしれない。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。 ズメントパークの園内である。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

れた線を隠しきれてはいない。

「当日の様子を話していただけますか?」

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのしていた。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 唐木田がこの場で有効な証

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

問一 17b 三人称限 定 (1) なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メト 口 ノ 1 4

み

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

ける。 駆けていった。 りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 口 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 絶対

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ っちへ行きたかった。 弟の手前でさえなければ

でも弟はもう駆けだしていた。 床面の矢印が点滅

L

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

にマットレスの感触。 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。はは口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もと、内側にずらりと立んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 17b 三人称限定②

れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から禁を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

ŧ

20 女体協幹司包

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、美サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 17b 遠隔型の語り手

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停を別ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 を別ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 を別ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 を別ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

> 整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

プできない子供たち、

跳びこむ動きが困難な利用者を

っている。

は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

問三 17b 傍観型の語 り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを 一日ぶり十六件目。 蹴りつけ続け 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

n 予定もたたないだろう。とはいえ、 威圧感を覚えたのか、 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 私のような雇わ アミューズ つまり私に

> 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 安堵した親が子供に声をかけ、 子供は泣き腫らし

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。

安心させる

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 りな旧式スキャナの電源を入れる。 ようににっこりと笑うと、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 私は部屋の端にある目立た そちらの大掛か 同シフトの

緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。 この職場はあまり心臓によ

緒に来たと思しき男の子と

ζ

232

ない。

問 四

エントランスは殺風景で、 17b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

5

国

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いものだ。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

う ヤ

ナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そ

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

や

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 を取

文体操舵記録

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しておずんだ枠となって残っている。アトラクションではないので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチッの。温用される前の状態であった。当時の面影はは事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの場所を選んだ理由だった。

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ります

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を

淡ですが

いた。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視 点と語 りの声 18

一 18a 三人称限定①

いく。 唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ て歩いていく。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 弟の背丈ならだいた 絶対

けるのを見た。 にマットレスの感触。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

る。

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

٤ しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 18a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

啓は駆けだしていた。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

٤

٤

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、

ぼすん

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、 レンズがきらきらしている、 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と その全部がコマ送りで感 フレームの内側で

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向

か

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 イクルキャプチャ©は、 問二 18a 遠隔型の語 対象が動いてくるの 前り手

差し向 地球

|部へ

跳びこむことを要求する。

図式としては

を

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 ・チ内 .側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、 《再構成圏 内 そ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 は少ない。安全性に懸念を示す親や、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 跳びこむ動きが困 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが間一段階では取りにくい(間二でわかった)とうのが間一段階では取りにくい(間二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 18a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

か

高橋さんに目配せをしてドアを開け、々ないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛た。同シフトの

力

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

国

緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 問 四四 18a 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ったかもしれない。

ズメントパークの園内である。

その 銀の半円リングが回っている。 回る動きも、

か

すでに入場料を払っているのだ

や

5, 動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、

ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答

していた。

当時のシフト表ではスキャナールームにの

ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

広告用の園内写真もない。サイクルキャプ

チ

いので、

241 文体操舵記録

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 唐木田がこの場で有効な証

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

問一 18b 三人称限 定 (1)

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メト 口 ノ 1 4

み

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

ける。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

口

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 っちへ行きたかった。 ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 弟の手前でさえなければ 絶対

でも弟はもう駆けだしていた。

床面の矢印が点滅

L

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

にマットレスの感触。る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

していられるの?

問一 18b 三人称限定②

れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも―― 啓が見 たことのある本物のジャイロスコを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からず中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

ŧ

243 文体操舵記録

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、美サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 18b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84~48の範囲で回転している。RPM

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、

内部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

人

地球

差し向

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること上がタンの本来の使用者である常駐保安員のやることく人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

いっぱっぱん である できない できょう と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

整理がかなり大変だと思いました。

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

・ 問三 18b 傍観型の語り

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを 一日ぶり十六件目。 蹴りつけ続け 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

れのような雇力である。とはいえ、私のような雇力が定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇力メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ、近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

――少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

緒に歩いていた。

<

ない。

問

エントランスは殺風景で、 四 18b潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

5

国

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん いものだ。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

う ヤ ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

や

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 ナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ を取

文体操舵記録 247

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。

場所を選んだ理由だった。

な実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

文体操舵録

2022/07/13 初版発行

著者 あやふや

Telecocoon, Ltd. 発行

https://telecocoon.netlify.com

組版

vivliostyle-jppb https://github.com/ayhy/vivliostyle-

jppb

電子版なので乱丁落丁の代わりに誤字脱字がありま す。ご容赦ください。